

(1/8)

平成27年2月 28日
 ヴィアス子ガガ管理組合
 MLC P策定委員会

MLCP通信：第14号



「MLCP運用構築部」
 佐藤/浜口
 発行 No.014

「委員会がガガ」 (表参照)

役職名	ガガ	MALCA
1 策定委員	菅川 俊	飯田 本朗
2 副委員	早田 伸	吉野 賢輔
3 幹事	菅野 俊	浜口 加藤子
4 事務局員	菅野 俊	長谷部 誠
5 委員	小澤 伸	井ノ口 康之
6 事務局員	鈴木 和義	

(20名・構成)

「注記」

- ① H27・2・11日、MALCA指導による第14回MLCP策定委員会にガガが参加しました。
MALCA指導による、詳細は別途ガガから作成して、全戸配布致します。
- ② MALCA指導による、詳細は別途ガガから作成して、全戸配布致します。
- ③ 法政大学大学院講師(元板橋区危機管理担当部長) 鍵屋 一氏(元副ガガ)から講演を頂きました。

件名： マンション生活継続に向けた地区防災計画について

「横須賀市・ヴィアス子ガガ」のMLCP活動にたいして、鍵屋 様から大所高所からの指導を下記の通り実施されました。
 その講演資料の中から、我々に関連のある事項について抜粋して記載し、又一部、ヴィアス子ガガのMLCP活動の関連行動も加味して編集した部分があります。

マンション生活継続に向けた地区防災計画

横須賀市ソフィア・ステイシア

平成27年2月11日(水)

法政大学大学院講師(元板橋区危機管理担当部長)

鍵屋 一

大災害は忘れない頃にやってくる(1)

- 貞観の時代
- ・863年、越中・越後で大地震(北陸)
 - ・864年、富士山や阿蘇山が噴火
 - ・868年、播磨・山城で大地震(関西)
 - ・869年、M8以上の貞観地震(東北)
- その後、肥後、出雲、京都、千葉で地震
- ・878年、南関東でM7以上の直下地震
 - ・887年、M8以上の東海・東南海・南海の三連動地震
- この間は25年

大災害は忘れない頃にやってくる(2)

- 天正・慶長の時代
- ・1586年、飛騨、美濃、近江(東海東山道)でM8級の天正大地震
 - ・1596年、伊予、豊後、伏見でM7級の慶長地震
 - ・17世紀初頭、十勝沖から根室沖までM8.4級の地震
 - ・1605年、M8以上の東海・東南海・南海の慶長大地震
 - ・1611年、M8から9級の慶長三陸地震(東北)
 - ・1615年、慶長江戸地震
 - ・1616年、宮城県沖地震(東北)
- この間は31年

大災害は忘れない頃にやってくる(3)

- 元禄・宝永の時代
- ・1703年M8級の元禄関東地震
 - ・1707年M8.4の東海・東南海・南海三連動型の宝永地震、
 - ・同年、富士山が噴火
 - ・1717年、M7.5宮城県沖地震(東北)
- この間は15年

大災害は忘れない頃にやってくる(4)

大正・昭和の時代

- ・1923年、M8 関東大震災(関東)
- ・1936年、M7.4宮城県沖地震(東北)
- ・1944年、M8.2東海地震(中部・関西)
- ・1946年、M8.4南海地震(関西、四国)
- ・1948年、M7 福井地震(北陸)

この間は26年

大災害は忘れない頃にやってくる(5)

そして「平成の時代」

- ・1995年、阪神・淡路大震災(関西)
- ・2004年、中越地震、その後中越沖地震、能登半島地震、岩手・宮城内陸地震
- ・2011年、M9の東日本大震災(東北)
- ・20XX年、首都直下地震？
西日本大震災？
富士山噴火？

25年後なら2020年！？
30年後なら2025年！？

大地震の発生確率

首都直下地震 30年間で70%
南海トラフ地震 30年間で60-80%

◎30年間の危険率

- 火災で死傷する確率 0.2%
- 交通事故で死亡する確率 0.2%
- 交通事故で負傷する確率 20%
- ジャンボ宝くじで100万円以上当たる確率(年4回20枚づつ買った場合) 0.7%

もし、地震予知ができるなら・・・

- 1か月以内に大地震確率 90%!
⇒必死に対策(家具固定、備蓄など自助中心)
- 1年以内に大地震確率 90%!
⇒一所懸命に対策(耐震化、地区防災計画、避難所訓練など自助・共助)

⇒国民や行政の**正常化の偏見**が防災対策を妨げている！

命を守る地震対策の優先順位

事前対策

1. 住宅の耐震化！
2. 家具止めなど室内の安全化！

●緊急地震速報の活用⇒地震～
直後対策

3. 津波から逃げる！
4. 初期消火！
5. 救助！

平成26年度 地区防災計画制度施行

■地区防災計画は「近助」(従来からの共助)の強化を主目的

⇒近助が強くなれば、自助も新たな共助も公助も強くなる！

決め手は「ご近所力」①

◎社会関係資本 Social Capital

人や地域をつながり=信頼の絆=ご近所力

社会関係資本は、人々を賢く、健康で、安全で豊かにし、公正で安定した民主主義を可能とする。

※「ご近所力」は付加的価値ではない
※「ご近所力」こそが、安心安全の源泉
地区防災計画=「ご近所力強化計画」!

決め手は「ご近所力」②

◎ご近所=コミュニティには2つの意味

- ① 地縁的・財産管理的な組織
自治会・町内会、学区組織、マンション管理組合・・・
- ② 共通の目的・価値で活動する組織
消防団、PTA、商店街、地域ボランティア・NPO・・・

「地区防災計画」は①②を縦横斜めに連結し、地域全体の防災力とコミュニティ力、個人の幸福感を高める「可能性」をもつ

ご近所力のないモデル

家具固定・備蓄 情報入手・避難
家具固定・備蓄 情報入手・避難
家具固定・備蓄 情報入手・避難

(3/8)

ご近所力のあるモデル
 ご近所力は、地域防災の相当部分をカバーできる！

家具固定・備蓄
 情報入手・避難

つながり・お互い様・安心感

3月11日
 共同住宅からの避難者

★揺れが怖いから避難所に行きたい。
 ★階段がすこし壊れたから避難所。
 ★大家が引越しい代を負担するまで避難所にいたい。

○住めるのに避難所に来た人が多い
 ○大規模になれば、避難所は大混乱
 ⇒シエンターとしてのマンションが重要
 情報、設備、水・食料、個人の特別なニーズ

マンション防災の課題(1)

1. 「安全」が必要

- ・耐震、家具転倒防止、要援護者支援、備蓄、設備、情報、避難・・・の弱さ
- ・住民、管理組合、管理会社、行政、地域、NPOなどのノウハウ不足

⇒備蓄、規約、マニュアル、ガイドライン等を示すだけで住人は備えるか？
 マンション全体の防災力は高まるか？
 ⇒実効性を高める方策は？？

マンション防災の課題(2)

2. 「安心」が必要

・被災後の混乱を回避するには安心感が必要不可欠
 ・しかし安心感は主観的（たとえば放射能、耐震性、避難所、医療・・・）
 ・完全な安心はありえない・・・
 ※コンクリートの小さな箱の中で孤立
 ⇒安心をどう作るか？？

マンション防災の課題(3)

3. 「回復力」が必要

- ・マンション住民、特に高齢者等が被災したあとの生活をどう回復するか
- ・マンション躯体、設備に被害が生じたとき、全体最適を実現するために住民の合意形成が早期にできるか
- ・復旧・復興の長期にわたって住民が支えあえるか

⇒回復力をどう作るか？？

すぐれたマンション防災事例

- ★マンション住民総出で復旧活動し、積立金から設備補修費の支出をすくに決めた
- ★防災マニュアルを作成、防災訓練に多数参加
- ★帰宅困難者のためにロビーを解放するなど

⇒すべて日常活動が活発で、コミュニケーションがよいところ

マンション地区
 防災計画の
 方向性(1)

※強みを活かす

- 多分野、多様、多彩な人材が高密度に存在
- 住民相互の物理的距離が極めて近い
- 総体的に建物が強い

マンション地区
 防災計画の
 方向性(2)

※弱みをカバーする

- 住民のコミュニケーションが少ない
- 防災は管理会社、行政任せ意識
- マンション内被害、設備被害に関する規定未整備
- 災害時の住民の合意形成が不安

マンション地区防災計画

災害に強いマンションのキーワード

◎ハード×ソフト×ハート

- ・耐震性、設備、備蓄
- ・計画、訓練、自治体・地域連携
- ・あいさつ、おしゃべりイベントで顔の見える、助け合える関係

⇒ソフィアステイシアに期待！！

議事録からの抜粋

[MLCP 第14回・策定委員会の協議風景]

項 目	議 要	備 考
1] マヨコ生活継続に向けた地区防災計画	<p>始めに内閣府「ボイブ」-龍屋氏より前記の件について説明があり、以下補足及び議員交換をした。</p> <p>① マヨコで地区防災計画を作るのは全国でもマヨコだけである。ボイブをやるというよりも、マヨコの最先端の取り組みを全国に広めたいと思っている。マヨコの地区防災計画が完成したら横浜買付地区防災計画に組み込んでいく。</p> <p>② 最初に取り組むところは試行錯誤の連続で苦労が多いと思うが、後に続く所の指標となる。</p> <p>③ 地区防災計画は行政とも話し合いながら、作って行く。地区防災計画が強くなれば、自助・公助(地域)も強くなる。</p> <p>④ マヨコでは、帰宅困難者が多数であるだろう。家族の安全が確保できれば無理して帰宅しない事に、「安否確認がけ」の導入も考えている。</p> <p>⑤ 3.11後、地震は当然起きないと考えている人が多い。全国で余震が盛んになった後に、三連動の地震が起こり易くなるので本気に急がない。住民に避難させる事が必要である。</p> <p>⑥ 配布資料②「我が家の防災マップ」は自分と家族が使うもので、それぞれの家族で「家族防災会議」を行うことが大事。親の防災意識が低いと、子供の防災意識も低くなる傾向があるようだ。</p>	
2] 管理規約の改定	<p>① 被災直後に総会や理事会が開催できない場合の理事長の権限や、人前政助の池の専有部分への立ち入りなどを管理規約の中に明記する必要がある。管理組合と自治会、自主防災会の関係性も管理規約に明記することが必要である。</p>	



(5/8)

我が家のスタートアップ(1)

平成27年2月11日
 熊鷹 塚(内閣府)「F」から提供

項目	品目別	大人2人用	発災の1日目の必要品	項目別	大人2人用	発災後に着せ替えする用品	項目別	大人2人用	発災後に着せ替えする用品
[A] 非常用持ち出し袋・用品				[B] 情報用「F」			[F] 赤ちゃん用品		
1 非常用持ち出し袋	1 個	<input type="checkbox"/>	馬だと安い所に置く、両手が空くので「F」が履きやすい。	1 携帯電話	<input type="checkbox"/>	発災後に着せ替えする用品	5 洗淨綿	<input type="checkbox"/>	発災後に着せ替えする用品
2 仕入り乾パン	2 個	<input type="checkbox"/>	水が溜まり、缶入りの「F」、即席パン	2 「F」	<input type="checkbox"/>	自然災害用情報に登録	6 「F」	<input type="checkbox"/>	
3 「F」(飲料水(500ml))	6 本	<input type="checkbox"/>	水が溜まり、缶入りの「F」、缶でもよい。	3 PC	<input type="checkbox"/>	「F」から、「F」からも有効	7 「F」	<input type="checkbox"/>	
4 懐中電灯	2 個	<input type="checkbox"/>	持ち運びやすいように一人3本とした	4 乾電池式充電機	<input type="checkbox"/>	予備電池	8 紙おむつ	<input type="checkbox"/>	
5 「F」等	2 本	<input type="checkbox"/>	LEDが履きやすい、100円「F」で入手	5 手帳	<input type="checkbox"/>		9 母子手帳	<input type="checkbox"/>	
6 「F」	2 本	<input type="checkbox"/>	LEDが履きやすい、100円「F」で入手	6 備忘録	<input type="checkbox"/>	写真も必要	# 靴	<input type="checkbox"/>	
7 携帯「F」	2 個	<input type="checkbox"/>	100円「F」で入手可能。	7 家族情報シート	<input type="checkbox"/>		# 靴	<input type="checkbox"/>	
8 万能はさみ	1 台	<input type="checkbox"/>	情報収集用、予備電池が必要	[C] 必需品・貴重品			# 「F」	<input type="checkbox"/>	発災後にもなる
9 軍手・手袋	2 対	<input type="checkbox"/>	はさみ、「F」、配電、給電の準備あり	1 現金	<input type="checkbox"/>				
# 「F」7m以上	1 本	<input type="checkbox"/>	軍手は強い綿100%で滑り止め付	2 車・車の予備機	<input type="checkbox"/>				
# 救急袋	1 枚	<input type="checkbox"/>	変換プラグは「F」の片付けに役立つ	3 予備「F」、コップ「F」	<input type="checkbox"/>				
# 毛布巻	1 本	<input type="checkbox"/>	救急用、人体が変えられる強度	4 現金簿	<input type="checkbox"/>				
# 消毒薬	1 本	<input type="checkbox"/>	「F」は、ぬいぐるみの代用	5 健康保険証	<input type="checkbox"/>				
# 乾電池	1 本	<input type="checkbox"/>		6 運転免許証	<input type="checkbox"/>				
# 「F」(消毒)	2 枚	<input type="checkbox"/>		7 「F」シート	<input type="checkbox"/>				
# 「F」	10 枚	<input type="checkbox"/>		8 印鑑	<input type="checkbox"/>				
# 包帯	2 巻	<input type="checkbox"/>		9 証明書類	<input type="checkbox"/>				
# 三角巾	2 枚	<input type="checkbox"/>		[D] 女性用品					
# 「F」	4 枚	<input type="checkbox"/>	大半の手ぬぐい、「F」でも可	1 生理用品	<input type="checkbox"/>				
# 非常用・持帰用など	1 枚	<input type="checkbox"/>	緊急用としても重要	2 「F」付き「F」	<input type="checkbox"/>	懐の手当て等の「F」の代用になる			
# 「F」	2 枚	<input type="checkbox"/>	如方薬の「F」も入れる	3 鏡	<input type="checkbox"/>	LEDが履きやすい、発災用にもなる			
# 非常用・持帰用など	2 枚	<input type="checkbox"/>	避難先の「F」確保、1人1巻	4 「F」	<input type="checkbox"/>				
# 「F」	2 枚	<input type="checkbox"/>	非常時の経度防衛「F」シート	5 化粧品	<input type="checkbox"/>				
# 「F」	4 枚	<input type="checkbox"/>	非常時に備える「F」問題は深刻	6 おりもの「F」	<input type="checkbox"/>	下着の代用になる			
# 「F」	10 枚	<input type="checkbox"/>	「F」の採取、「F」の手当、下着の代用						
# 「F」	2 個	<input type="checkbox"/>	「F」の代用、「F」の採取等	[E] 高齢者用品					
# 「F」	2 個	<input type="checkbox"/>	水が無い時に役立つ	1 高齢者手帳	<input type="checkbox"/>				
# 「F」(汗口液)	50 枚	<input type="checkbox"/>	から通き、汗口液で口を清潔に保つ	2 おむつ	<input type="checkbox"/>				
# 「F」(100円玉)	1 個	<input type="checkbox"/>	公衆電話用、100円玉でもよい	3 靴擦れ	<input type="checkbox"/>				
# 「F」(巾着)	1 個	<input type="checkbox"/>	伝言筒等を貼る、等	4 備忘録	<input type="checkbox"/>				
# 「F」	1 本	<input type="checkbox"/>	伝言筒を、情報伝達	[F] 赤ちゃん用品					
# 「F」	1 S	<input type="checkbox"/>	冬場だけでなく暖かくなる	1 靴	<input type="checkbox"/>				
# 「F」	4 個	<input type="checkbox"/>		2 靴	<input type="checkbox"/>				
				3 靴	<input type="checkbox"/>				
				4 「F」	<input type="checkbox"/>				

我が家のスタートブック (1)

項目	品目/外	大人 2人 用	安全を確認し落ち着いてから、自宅に戻って避難所や自宅が必要な物。3日分以上の用意をする。
#	生活用品		
#	洗面用品		
#	タオル		
#	歯ブラシ		
#	石鹸		
#	ドラッグストア		
#	新聞紙		
#	安全ビニ		
#			
#	食料		
1	炊飯器		
2	乾パン		
3	缶詰		
4	缶詰/缶詰		
5	缶詰/缶詰		
6	缶詰/缶詰		
7	缶詰/缶詰		
8	缶詰/缶詰		
9	缶詰/缶詰		
#	缶詰/缶詰		
#	缶詰/缶詰		
#	缶詰/缶詰		

我が家のスタートブック (2)

取り扱い注意

(6/8)
平成27年2月11日
健康福祉部(内閣府)から提供

No	項目	家族に関する必要な情報/外	項目	家族に因る連絡先情報
1	家族全員の写真	各自の写真	No	情報内容
2	住所	① 地区 ② 郵便番号	① 電話番号 ② 携帯番号	
3	氏名	性別 年齢 誕生日 血液型 身長	④ 親戚関係	住所 電話 メール 職場情報
4	所属情報	① 住所 ② TEL ③ 住所/TEL ④ 住所/TEL ⑤ 住所/TEL	⑤ 友人関係	氏名 住所 電話 メール 職場情報
5	職業名	① 職名 ② 連絡先 ③ 主治医情報 ④ 職名 ⑤ 担当者名	① 保険証 ② 医療証 ③ 母子手帳	① 保険証 ② 医療証 ③ 母子手帳
6	治療及び病名	① 職名 ② 連絡先 ③ 主治医情報 ④ 病歴	① 171 ② 携帯171 ③ 速い緊急通報 ④ 速い友人経由	① 171 ② 携帯171 ③ 速い緊急通報 ④ 速い友人経由
7	特別な配慮事項	① 病名 ② 副作用 ③ 吐き易い	① 市役所 ② 警察署 ③ 消防署	① 市役所 ② 警察署 ③ 消防署
8	制器具	① ②		

(7/8)

我が家のスタートブック(4)・直後編

地震直後の対応項目	地震直後の実行活動	確認？
1	<p>絶対の正解はなく、その場で正しい判断ができればよいように訓練する事が重要。</p> <p>【注意】 以上は一時的な対応であるが、緊急時にはこれら判断を自ら行う。</p>	<p>【室内では】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 机の下、安全な場所、身をかがめる等日頃から家の中で安全な場所を確保し、確認しておく。 ② 機材の電源を止む。 ③ 火の元を消す。 ④ 火災発生時は、火を消す。 ⑤ 火災発生時は、火を消す。 ⑥ 火災発生時は、火を消す。 ⑦ 火災発生時は、火を消す。 ⑧ 火災発生時は、火を消す。 ⑨ 火災発生時は、火を消す。 ⑩ 火災発生時は、火を消す。 <p>【エレベーターでは】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 絶対の正解はなく、その場で正しい判断ができればよいように訓練する事が重要。 ② 機材の電源を止む。 ③ 火の元を消す。 ④ 火災発生時は、火を消す。 ⑤ 火災発生時は、火を消す。 ⑥ 火災発生時は、火を消す。 ⑦ 火災発生時は、火を消す。 ⑧ 火災発生時は、火を消す。 ⑨ 火災発生時は、火を消す。 ⑩ 火災発生時は、火を消す。 <p>【エレベーターでは】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 絶対の正解はなく、その場で正しい判断ができればよいように訓練する事が重要。 ② 機材の電源を止む。 ③ 火の元を消す。 ④ 火災発生時は、火を消す。 ⑤ 火災発生時は、火を消す。 ⑥ 火災発生時は、火を消す。 ⑦ 火災発生時は、火を消す。 ⑧ 火災発生時は、火を消す。 ⑨ 火災発生時は、火を消す。 ⑩ 火災発生時は、火を消す。 <p>【エレベーターでは】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 絶対の正解はなく、その場で正しい判断ができればよいように訓練する事が重要。 ② 機材の電源を止む。 ③ 火の元を消す。 ④ 火災発生時は、火を消す。 ⑤ 火災発生時は、火を消す。 ⑥ 火災発生時は、火を消す。 ⑦ 火災発生時は、火を消す。 ⑧ 火災発生時は、火を消す。 ⑨ 火災発生時は、火を消す。 ⑩ 火災発生時は、火を消す。
2	<p>揺れが収まったら、出入口の確保、二次災害防止</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 必ず余震があるので、できるだけ安全な場所に移動する。 ② 火が出たら煙が立ち上り消火する。小さい火は毛布をかきつける等で消し、有る程度大きくなったら消火栓を使う ③ もっと火災が強くなら、煙いのは火よりも煙。煙を吸わないように駆け抜けるか、低く伏して避難する。 ④ 外出する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を止める。 ⑤ トイレや風呂を空けて出入口を確保する。

我が家のスタートブック(3)・減災編

平成27年2月11日
 地震 減災(内閣府)のガイドラインから提供

減災対応項目	減災の実行活動	確認結果
室内の安全化	<ol style="list-style-type: none"> ① 寝具や子供部屋にはできるだけ家具を置かない。 ② 低い家具だけにして安全度を高める。 ③ 家具の置かれる方向には置かないようにする。 	
家具の転倒防止	<ol style="list-style-type: none"> ① 突っ張り棒、L字金具等は正しい付け方を要する。 ② 天井との隙間を隙間材等で埋めるのも有効。 ③ 高層の建物ほど揺れが大きくなる可能性が高いので、低い家具にするか、作り付けが望ましい。 ④ TVやパソコン等は逃げ場が少ないので、転倒防止をしっかり行う。 ⑤ 扉でも家具の下に重いものを置き、手前には片等をはさみ、壁に立てかける。壁から転ずるのも有効。 	
落下防止	<ol style="list-style-type: none"> ① 家具等の上に重いもの、危険なものを置かない。 ② 扉や時計は壁にしっかりと固定する。 ③ 掛けたい場合は壁にしっかりと固定する。 	
ガラスの飛散防止	<ol style="list-style-type: none"> ① 窓ガラス、食器棚のガラス等には飛散防止フィルムを貼る。 ② できるだけカーテンを引いておく。 	
テレビ、パソコン等の飛び出し防止	<ol style="list-style-type: none"> ① 耐震接着剤を貼る。 	
食器棚	<ol style="list-style-type: none"> ① 食器の下に滑り止めシートを敷く。 ② 開き戸の場合はフックや鎖止防止がけを付ける。 	
洗濯機、冷蔵庫	<ol style="list-style-type: none"> ① 壁に転倒防止パッドを付けるか、耐震マットを活用する。 	
照明器具	<ol style="list-style-type: none"> ① 吊り下げ式の照明器具は危険性が高い。 ② 壁に固定する場合は、チェーンで確認する。 	

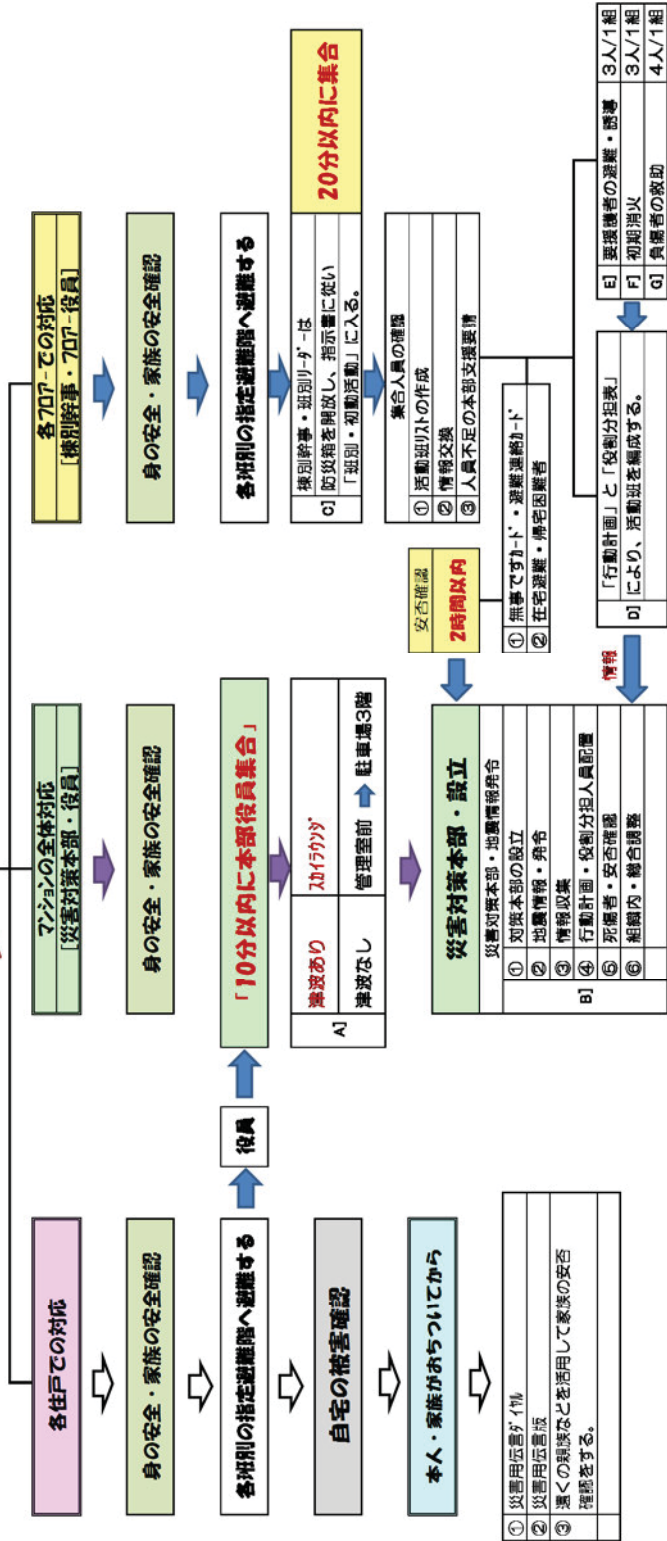
我が家のスタートブック (4)・直後編

平成27年2月11日
 地震本部(内閣府)から提供資料を
 一部加筆して修正。

(8/8)

地震直後の対応項目	地震直後の実行活動	確認？
3 家族の安全を確認し、初期消火救助活動を行う	① 次のページで説明	
4 火、ガス、換気、公的機関から信頼できる情報を収集し、真偽を判断してから行動する。	① 火が必ず発生する。 ② 真偽を判断してから行動する。	
5 支援する、必要な支援を求め、必要な支援を求める。	① 自分より厳しい状況にある被災者を支援する。 ② 困っている状況、必要な物を信頼できる人、公的機関に伝える。	

シフトステイションのアクションプラン



(1/3)

1.] 議事録からの抜粋項目

項目	概要	備考
2) 中期計画づくり	<p>居住者の意識啓発、特定額の整備、代替手段の増強、建物・設備の改修等を段階的に行うための課題の検討。</p> <p>① ハード面</p> <ul style="list-style-type: none"> * 非常用電源(発電・蓄電)の導入 電気、給水、通信、ガス、設備の耐震、津波対策 <p>② ソフト面</p> <ul style="list-style-type: none"> * 代替手段の増強 仮設トイレ・衛星電話など <p>③ ハード面</p> <ul style="list-style-type: none"> * 専門チーム 要援護者対応、設備対応 等 	
2 MLC P(地区防災計画)の作成に向けて	<p>① 「津波浸透率比」算定」等、外部からの浸透者への対応については、地区防災計画に盛り込み、横浜市内への要請書を出す。津波浸透率に係わる現状回復の費用負担を「市の負担」とすることを明確にする。</p> <p>② 「地区防災計画」は近隣ヤシロを含め、今後 海辺NT全棟も視野に入れる。</p> <p>③ 「管理規約」については、問題は多いが本来の「団地型規約」への変更も検討する必要があるかもしれない。災害が起きた時に該団地に該団地の団地が異なる場合、厄介な問題となる可能性がある。</p> <p>④ 平成27年度より、管理組合として食糧・飲料水等の備蓄を10トシ、0-リットルを定める。5年を目安に期限が来たものは防災訓練で消費する。</p> <p>⑤ 各家庭で備蓄している物資も所持品と交換して、訓練などで消費する。</p>	

平成27年3月15日
 7/17/17分管理組合
 MLC P策定委員会

MLCP通信：第15号



「MLCP通信編纂部」
 佐藤/深口
 発行 No.015

「委員会メンバー」

役職	氏名	所属
1 委員長	山川 浩一	MALCA
2 副委員長	高石 真一	新田大邸
3 幹事	平田 伸	和久忠孝邸
4 幹事	伊藤 好理	栗野真邸
5 幹事	藤田 邦夫	栗野真邸
6 幹事	小澤 浩	井ノ口南之
7 幹事	鈴木 純	鈴木純邸

(20名・増設)

「注記」

① H27・2・22日、MALCA理事による第15回MLCP策定委員会に「1-1」が参加しました。
② MALCA理事による、「1-1」を「1-2」から「1-3」に変更し、全戸配布致します。
3

件名： 7/17/17 MLC P(地区防災計画)の作成に向けて(抜粋事項)

【作成2/7/17】

- * 3月11日(水)・ 策定委員会でMLCPの原案指示
 - * 3月22日(日)・ 策定委員会で報告書の修正指示
 - * 3月31日(火)・ 最終報告
- ◇ 「策定委員会」でMLCPの大作を3月末までに完成し、4月以降の実際の活動や取り組みは、「自主防災会」が引き継いでやっていく。

1.] 議事録からの抜粋項目

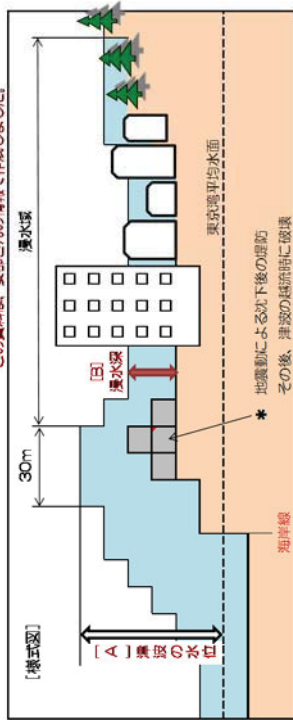
項目	概要	備考
1. 管理規約改正案について	<p>1) MALCA専務理事・飯田氏から「奥川法律事務所・鈴木弁護士」の両者が説明され、原案交換を行い、整理し再提示頂くことになりました。</p>	
2 MLC P(地区防災計画)の作成に向けて	<p>1) 「地区防災計画」の残された検討課題として下記項目が提示され、補足及び原案交換をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 地区防災計画を形成に入れた近隣の関係 <ul style="list-style-type: none"> * 外部からの浸透者への対応 * 上記を含む横浜市内への要請 * 近隣ヤシロ等への働きかけ 	

1.] 構想案からの抜粋項目

項目	概要	備考
3 今後の中期の課題の検討	<p>① 今後の「中期の課題」については、MLCPの大作を3/未までに完成し、4月以降の実際の活動・取り組みは「自主防災会」が引き継いで活動を経営して行く。</p> <p>② 中期計画作成の前に</p> <ul style="list-style-type: none"> * 居住者の防災教育 * 防災箱作り・配置/訓練など <p>緊急に進める必要のある事項もあり、計画に盛り込むことが大事である。</p> <p>③ 「防災箱」については、EV前の「各社の避難集合場所」に設置し、しっかりと箱・内容で</p> <ul style="list-style-type: none"> * 作業指示書 * 無線機 * ハンドマイク * Almet <p>棟別幹事が保有する機材一式を入れておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 707地図 * 棟別707の安否確認一覧表 * 緊急連絡簿(階別) * 緊急避難母目録 * その他 <p>④ 「防災組織編成」は</p> <ol style="list-style-type: none"> 平日対応の川-をMiyとして考える。 あらかじめ担当を決めても防災時に担当者が不在であれば機能しない。 Miy以内で負担していない住人を含むので、動員して連絡網案に対応しなくてはならない 休日、夜間の災害対応は就業者も含めて動員する。 <p>⑤ 「中期の課題の検討」は初期対応も新たにに入れて、各自案を作ってもらい全員Miy返信してもらうことにしました。</p>	

2.] 神奈川県津波浸水予測図

(2/3)
◆ 神奈川県として、「津波浸水想定避難計画」において、地域別「津波浸水予測図」に対する浸水予測を行なっています。この資料は、安部さんの資料で作成しました。

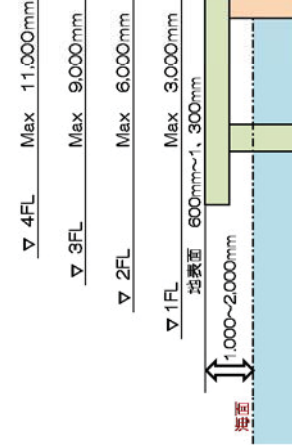


「平成町地区・津波浸水予測図」

過去における震災の行方	[A] 最大津波高さ m		[C] 津波到達時間分		[B] 浸水深高さ m		
	平成	新津	平成	新津	平成地区		
① 相模トラフ沿いの海溝型地震(西側行方)	3.6	3.8	4.0	20	21	29	1.0~2.0
② 相模トラフ沿いの海溝型地震(中央行方)	3.9	4.1	4.2	102	103	103	1.0~2.0
③ 元禄関東地震行方	3.1	3.4	3.6	22	22	24	1.0~2.0
④ 元禄関東地震行方と豊田津-松田新津 沿岸の運動地震	3.1	3.4	3.6	22	22	23	1.0~2.0
⑤ 慶長型地震	3.4	3.3	4.5	64	65	73	0.3~1.0

2.] ヲアアサイトの構築レベル

下記寸法は設置値



3] 奥川法律事務所・鈴木弁護士の見解

(3/3)

[MLCP 第15回・策定委員会の協議風景]



項目	概要	備考
1) 管理規約改正案について	<p>① 住民の安全と命を守る災害対策を推進して行くためには、管理規約の改正と同時、「区分所有者の同意」が必要であり、災害被害に準じた財政支援も必要条件となります。</p> <p>② 「奥川法律事務所・鈴木弁護士の見解」について説明が有り補足及び意見交換をしましたが対象が多岐にわたるため、再度整理して提示される事になりました。</p>	



MLCP通信：第16号

平成27年4月20日
 7/17/25/27 管理組合
 MLCP推進委員会

「MLCP連携構築部」
 佐藤/浜口
 発行 No.016

「委員会メンバー」

担当委員	7/17/25/27	MALCA
1 安部雄一	西川明秋	飯田太郎
2 船田 謙	平田 伸	杉久田幸市
3 岸 好雄	夏田俊子	栗原成孝
4 高橋勲夫	夏田俊子	栗谷部誠
5 柴田 茂	小澤雄夫	井ノ口啓之
6 佐藤博雄		鈴木利真

(20名・構成)

「注記」

- ① H27・3・11日、MALCA理事による第16回MLCP推進委員会にメンバーが参加しました。
- ② MALCA理事による、詳細は別途「7/17/25/27地区防災計画(連絡版)」を作成して、全戸配布致します。
- ③ せは、u-room つなぐ時刻表が7/17/25/27が出版

件名： 安否確認システムと地区防災計画(案)に付いての意見交換

1.] 災害対応情報システムの検討

項目	概要	備考
1 安否確認システムの検討	1) 大地震等の災害発生時に7/17/25/27居住者の適切な行動を促すための情報システムは大事な課題です。 2) 住民の安否確認体制 ① 居住者の安否確認 原則各住戸を廻り要援護者名簿がある場合は、それを優先に避難支援・救助等の活動を行う。玄關ドアに「避難完了」の掲示を実施し、巡回幹事の巡回による情報収集の自動化を促進する方法が良い。	

1.] 災害対応情報システムの検討

(1/3)

項目	概要	備考
1 安否確認システムの検討	② 戸番の無い住戸の安否確認 玄關ドアを叩き、声を掛けても応答がない住戸では a. 家人が外出中で不在の場合 b. 負傷等により自力で扉を出出来ない場合、などのケースが考えられます。住戸内に明らかに負傷者がいると推測される場合は、大至急救出・救助を行う必要がありますが、玄關ドアが閉鎖されている場合は、玄關ドアを切断する、または窓の面格子を外して扉が壊れるなどの方法で住戸内に立ち入り負傷者を救助するという緊急避難的措置を講じる必要があります。そのため、人命救助の目的で住戸内に立ち入る場合の許可を管理規約案に明記する必要があります。 ③ 安否確認対策の事例 * 管理会社と連携して幹事者の専有部分の鍵を預かる等の対策。 * 一人暮らし高齢者に何処まで安否確認を希望するか、事前に事前に確認をする。などの対策を講じている7/17/25/27もあります。	

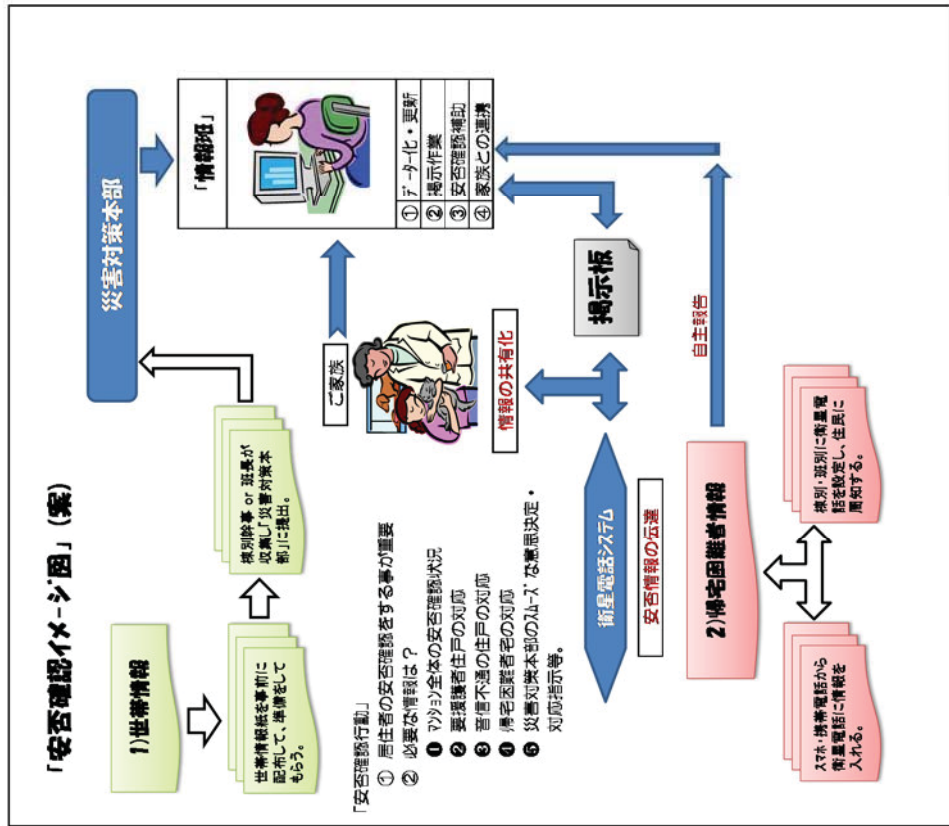
(2/3)

1.] 協事員からの抜粋項目

項目	概要	備考
1 安否確認アプリの検討	<p>④ 帰宅困難者の安否確認</p> <p>ワリアイワ地区には、遠隔地に通勤・通学している居住者が大勢いますが、大規模災害が発生した場合は、ほとんどが帰宅困難者になってしまう。遠隔地で被災した居住者やワリアイワ内の家族、及び災害対策本部との間の安否確認は、防災上の重要なテーマです。そのため、迅速かつ確実に安否確認が行えるアプリについて以下の方法を検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 災害用伝言ダイヤル(171) ② 災害用伝言板 ③ 災害用アプリ「ドット」伝言板(Web171) ④ SECOM緊急連絡網特7-7s ⑤ SECOM安否確認特7-7s ⑥ つなぐネットコミュニケーション Mcloud ⑦ 衛星携帯電話 <p>⑤ 第16回MLCP策定委員会では、SECOM&J-COM、及びつなぐネットコミュニケーションを招聘して、安否確認の機能、通信の確実性、導入費用について提案を受けました。</p>	
1 M安否確認アプリ	<p>1) 「つなぐネットコミュニケーション」について提案があり以下意見交換をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アプリでは「つなぐネットアプリ」は既に導入しており今使用している管理組合支援サービスに、追加の防災機能「安否確認機能」を7-7sするとする提案であり、既存機能に防災機能を追加するとする。言うことである。 ② M、つなぐ、衛星電話を加えてMALCA吉野さんにも別途検討していただく。 	

項目	概要	備考
2 つなぐネットコミュニケーション安否確認の提案	<p>1) 「つなぐネットコミュニケーション」について提案があり以下意見交換をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① アプリでは「つなぐネットアプリ」は既に導入しており今使用している管理組合支援サービスに、追加の防災機能「安否確認機能」を7-7sするとする提案であり、既存機能に防災機能を追加するとする。言うことである。 ② M、つなぐ、衛星電話を加えてMALCA吉野さんにも別途検討していただく。 	
3 ワリアイワ地区防災計画案の提示	<p>ワリアイワ地区防災計画(MLOPI)の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ワリアイワ地区防災計画は、横浜質市防災会構に計画提案した後は、横浜質市地域防災計画に組み込まれる法定計画となるため、横浜質市地域防災計画と整合させる必要がある。 ② ワリアイワ地区防災計画は、ワリアイワ防災対策の最上位計画となるため、計画の中に管理組合、自治会自主防災会の関係性を明確化するとともに、管理組織の中に明記する必要がある。 ③ 災害対策本部の組織構成を見直し、従来の避難誘導班、情報班、消火班、救助班、救護班、船水給食班のほかに新たに救済復旧班、警備班、生活支援班、衛生管理班を配置する。 ④ 災害発生直後の初期対応を迅速にスタートするため「初期対応の手順書や初期対応に必要な器材を収納した管理庫前とワリアイワ」に設置する。 ⑤ 地区防災計画の成果物は、本稿の冊子及びCDの他に、全戸配布用の要約版「わが家の防災ノート」の2種類とする。 ⑥ 神奈川県が27年2月に見直しした新しい津波浸水予測図の津波浸水想定をワリアイワ地区防災計画に反映する。 	

2.] ソフトウェアの安否確認イメージ図(案)



[MLCP 第16回・被災委員会の協議風景]



(1/4)

平成27年4月25日
 ワイワイ防災管理組合
 MLCP策定委員会
MLCP通信：第17号
 「MLCP通信編集部」
 佐藤/浜口
 発行 No.017

「委員会がワイワイ」 (既刊版)

策定委員	ワイワイ	MALCA
1 安部 誠一	西川 好秋	高石 真一
2 杉田 博	平田 伸	和久田 幸志
3 界 好雄	高田 俊子	高野 成彦
4 高橋 邦夫	吉田 幸子	長谷 部 誠
5 柴田 茂	小澤 純夫	井ノ口 義之
6 佐藤 博雄		鈴木 和 美

(20名・構成)

「注記」

- H27・3/22日、MALCA理事による第17回MLCP策定委員会にワイワイが参加しました。
- MALCA理事による、詳細は別途「わが家の防災ドリット」を作成して、全戸配布致します。
- 井ノ口氏提案の「緊急携帯電話」について記載しました。

件名：「大規模災害発生時の安否確認行為の構築」について

A) 安部委員長の「ワイワイ構築の必要性」についての解説

東日本大震災の発生直後には、固定電話、携帯電話、インターネットなど、通信手段のほとんどがが壊れなくなりました。

理由としては、基地局が壊れたワイワイ、電線の断絶による通信規制などが挙げられます。

その結果、自宅にいる家族の安否が確認できず不安になった世帯主などが、大勢「徒歩帰宅」を選択しました。

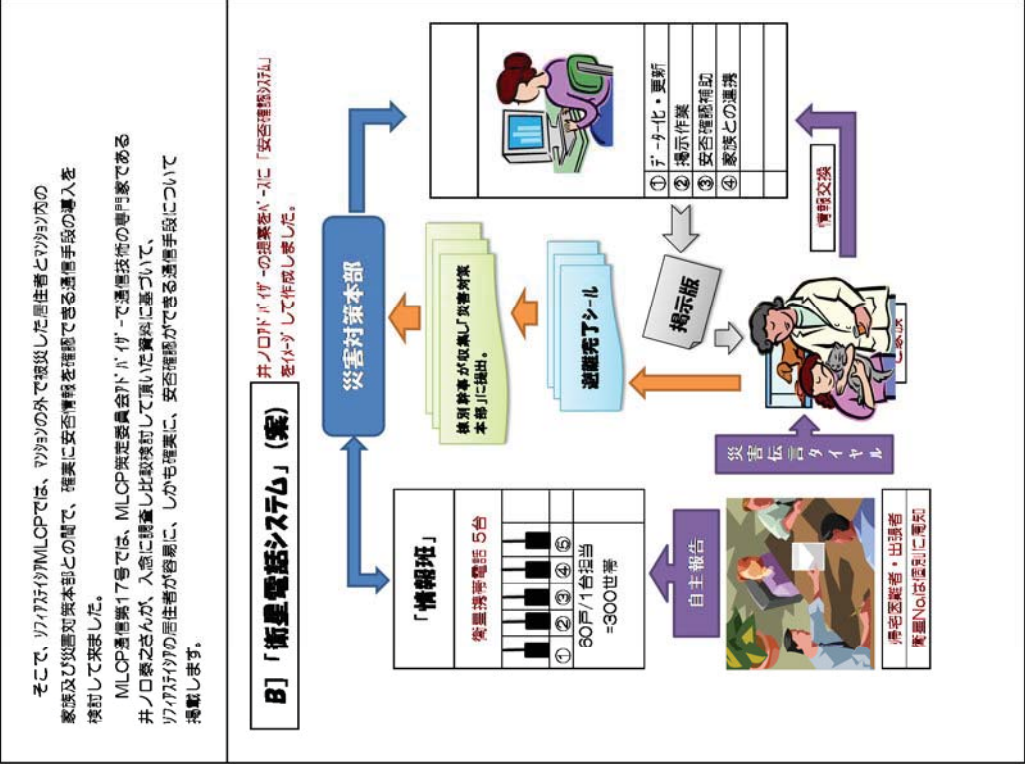
東日本大震災の時、首都圏では公共交通機関の不運、通信機能の低下などの影響を受けましたが、市街地では生者・ビルなどの倒壊もなく、大規模な火災も発生しなかったため、徒歩で帰宅した人たちは、帰宅の途程が断絶することを恐るはるの危険を感じることはありませんでした。

しかし、近い将来発生が懸念されている首都圏下地帯では、首都圏全体で640万人～800万人もの帰宅困難者が発生すると想定されています。

しかも、大地震による道路の寸断、建築物の倒壊、大規模火災などがいたる所で発生すると想定されており、そのような状況の中を徒歩で帰宅することは、まさに自殺行為とも考えます。

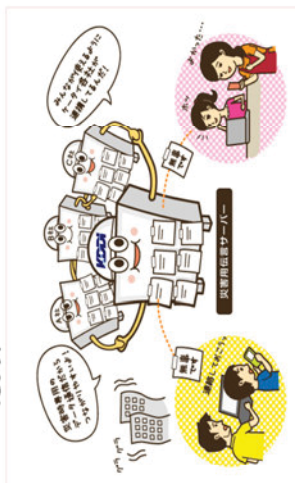
通信網断絶・通話者が多いワイワイでも、相当数の帰宅困難者が発生するはずですが、通勤先、学校、買い物、ワイワイなどでワイワイから遠く離れた場所まで運送した居住者が、ワイワイ内に居る家族の安否が確認できて、自分の所在地や自分の安否情報を家族に伝えることができれば、危険を冒して徒歩で帰宅することは避けられます。

自分の安否情報をワイワイに提供し伝えることができれば、無事であれば、無事な状況が待ち番き電車やワイワイが運行を再開するまでの間、勤務先や学校、自治体などが開設した避難所待機することができるとです。



C.]衛星携帯電話導入・井ノ口氏からの提案

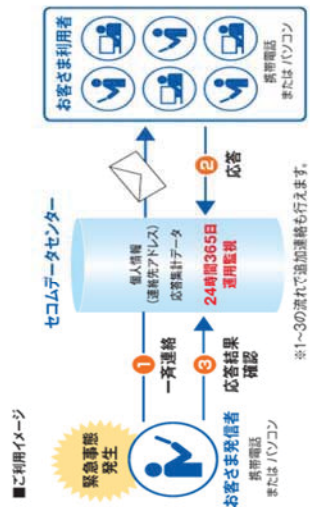
項目	概要
<p>1 衛星携帯導入について 井ノ口氏からの提案</p>	<p>東日本大震災の際は、固定電話約23万回線が不通となり、災害に比較的強いと言われていた携帯電話も6,000以上の基地局が「メー」を受け、数日間電話のつながらない状態が続きました。</p> <p>このような状況下において、家族の安否確認、防災情報の入手、市や自治体との連絡など大変困難なことは想像が付きまます。</p> <p>特に家族の安否確認方法の確立は、無理な徒歩帰宅による二次災害の発生を防ぐためにも重要な課題であると考えます。</p> <p>そこで自主防災会では、「7/7/7の住民全員の安否確認」を第一の目的として災害発生時の通信手段の確保について以下の通り検討いたしました。</p> <p>1) 一般的な安否確認の手段</p> <p>家族や知人との間で安否確認や避難場所の連絡などを「メール」で行うため、各電話会社では以下のようなサービスを提供しています。</p> <p>① 「災害伝言ダイヤル(1717)」 被災地の方が、自宅の電話番号別に安否情報(伝言)を音声で録音(登録)し、全県からその音声を再生(確認)することができます。</p> <p>② 「災害伝言板」 災害電話・PHSのインターネット接続機能で、被災地の方が伝言を文字によって登録し、携帯電話・PHS番号をもとにして全県から伝言を確認できます。</p> <p>③ 「災害用ドットボット伝言板(web171)」 被災地の方が、自宅の電話番号別に文字・動画・静止画の音声を登録し、全県からその音声を確認することができます。</p>



(2/4)

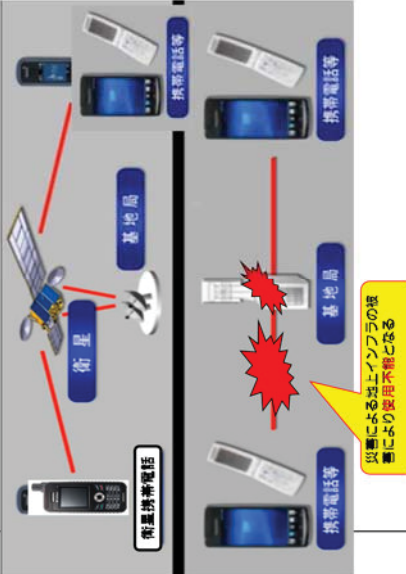
C.]衛星携帯電話導入・井ノ口氏からの提案

項目	概要
<p>1 衛星携帯導入について 井ノ口氏からの提案</p>	<p>2) 企業向けの安否確認の手段</p> <p>企業に向けた災害時の緊急連絡、安否確認を行うため、警備会社の「SECOM」や7/7/7のインターネット接続業者である「つなぐネットワーク」では、以下のようサービス(以下、安否確認方法)を提供しています。</p> <p>① つなぐネットワーク・McCloud</p> <p>災害発生時に管理者(7/7/7の加災部署)から各住民に宛して、一斉メールを送信します。(住民個人に宛付できません)メールを受信した住民が7/7/7に返信することにより、管理者は住所単位で安否確認を実施することができまます。</p> <p>上記のサービスは、自主防災会として7/7/7住所単位の安否確認をすることが可能となります。又、普段利用するメールを使用することから特別利用方法を理解しておく必要がありまます。但し導入に対してそれなりの経費が必要となりまます。又、一部のサービスを除けば管理者がその運用方法を理解しておく必要がありまます。</p> <p>② SECOM緊急連絡網サービス</p> <p>災害発生時に管理者(7/7/7の加災部署)から住民個人に宛して、災害発生状況と安否確認メールを送信します。メールを受信した住民が返信することにより、管理者は携帯電話や7/7/7を利用して専用ホームページから住民の安否確認を一斉把握することが出来まます。</p>

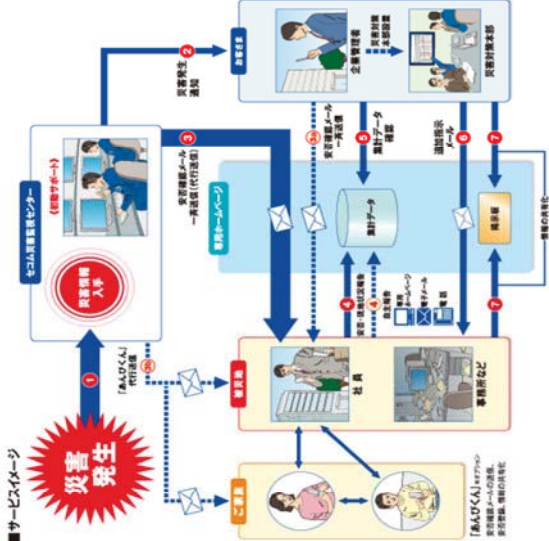


(3/4)

C] 衛星携帯電話導入・井ノ口氏からの提案

項目	概要												
<p>1 衛星携帯電話導入について井ノ口氏からの提案</p>	<p>4) 衛星携帯電話 災害発生時の連絡手段として、注目を集めているのが衛星携帯電話です。衛星携帯電話は、地上インフラ上の陸線や回線への依存度が低いため、大規模災害で基地局等が破壊されたとしても、利用することができます。いくつかのメーカーが衛星携帯電話を取り扱っておりますが、価格はどれも大差はありません。</p> <p>5) 衛星携帯電話の料金</p> <table border="1" data-bbox="662 504 805 828"> <thead> <tr> <th>料金内訳</th> <th>衛星電話「リュウア」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本使用料</td> <td>4,900円/月</td> </tr> <tr> <td>無料通話</td> <td>1,000円/月</td> </tr> <tr> <td>通話料</td> <td>160円/分</td> </tr> <tr> <td>SMS通信料※</td> <td>70円/通</td> </tr> <tr> <td>データ通信料</td> <td>2円/1KB</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ SMS(Short Message Service)とは、相手の携帯電話番号を指定し、最大全角70文字まで文字列を送信できるサービスです。</p> 	料金内訳	衛星電話「リュウア」	基本使用料	4,900円/月	無料通話	1,000円/月	通話料	160円/分	SMS通信料※	70円/通	データ通信料	2円/1KB
料金内訳	衛星電話「リュウア」												
基本使用料	4,900円/月												
無料通話	1,000円/月												
通話料	160円/分												
SMS通信料※	70円/通												
データ通信料	2円/1KB												

C] 衛星携帯電話導入・井ノ口氏からの提案

項目	概要
<p>1 衛星携帯電話導入について井ノ口氏からの提案</p>	<p>③ SECOM安否確認代行 災害発生時に管理者(傍がワキ子)が防災部長の代行として、SECOM災害監視センターから、あらかじめ登録された住民リストに対し、災害発生状況と安否確認メールが送信されます。管理者は携帯電話やパソコンを利用して専用ホームページから住民の安否確認を一元的に把握することができます。</p> 

[MLCP 第17回・策定委員会の協議風景]



D. J. / ア. / ス. / イ. / タ. / における災害発生時の安否確認

それぞれの安否確認手段の利点、欠点をまとめると次の通りとなります。

利点	欠点	備考	
災害用伝言ダイヤル等	<ul style="list-style-type: none"> ① 導入に対する経費が不要なし。 ② 家族、知人等の間の安否確認としては有効。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 住民の安否確認を一元的に把握できない。 ② 災害用伝言ダイヤル等の利用方法を理解しておく必要がある。 	
安否確認システム等	<ul style="list-style-type: none"> ① 住民の安否確認を一元的に把握できる。 ② 住民は普及利用しているメールを使用することから特別な利用方法を理解しておく必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 導入に対する経費が高い。管理者がその運用方法を理解しておく必要がある。 ② 地域周辺の地上エリアに大きな被害が出た場合、エリアの通信手段が確保できないため機能を発揮できない可能性がある。 	<p>「J. / ア. / ス. / イ. / タ. / における安否確認システム」を導入した場合の経費</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 初期費用: 200,000円 ② 基本料金: 30,000円/月 ③ ユーザー-1人につき 30円/月
衛星携帯電話	<ul style="list-style-type: none"> ① 使い方が簡単 ② 比較的安い経費で通信手段を確保することができる。 ③ 地域周辺の地上エリアに大きな被害が出ても、通信手段を確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 住民の安否確認を一元的に把握できない。 	
1 衛星携帯導入について井ノ口氏からの提案		<ul style="list-style-type: none"> ① 衛星携帯導入については、下記の通り実施することが適当と考える。 <ul style="list-style-type: none"> ① 家族間の安否確認は、原則として各住戸毎に「災害用伝言ダイヤル(171)」等により実施する。 ② 住民は、各家族の安否確認の状況を「災害対策本部」に報告し、「災害対策本部」は各住戸の安否情報を取りまとめる。 ③ 「災害対策本部」は、「衛星携帯電話」を準備し外部からエリアへの通信手段として発信待ち受ける。 ④ 住民は、電話の利用制限、地上エリアの被害により、衛星電話や固定電話が利用できない場合は、当該住民家族との連絡手段として「衛星携帯電話」を利用する事ができる。 	

2.] MLCP策定委員のコメント

【MLCP策定委員会】
委員長：安部 俊一さん（326号室）・（防災士）
 MLCP策定委員会の発足に当たっては、策定委員の皆さん、アドバイザーの皆さんに参加を呼び掛け、アドバイザーの委員会の委員活動の中で数々の困難な作業を分担して頂き、大変申し訳なく思っています。
 おかげで日本初の地区防災計画の策定に貢献することができました。
 心より感謝申し上げます。

アドバイザーMLCP（地区防災計画）は、「完成したら終了」ではなく、これから、策定した計画書に沿って着実に防災力・減災力を高めて行くことが地域に暮らす我々市民の責務です。計画を進めて行く過程でも、進捗状況や達成度を検証し、必要に応じて計画を見直ししていくことも重要です。
 何よりも大事な事は、全ての居住者が「災害で死なない」という防災意識を共有することです。

アドバイザーの防災力は、これまでもアドバイザーや新聞、週刊誌などで「最強の防災マシーン」と称されてきましたが、一方で自己満足になっていたのではないかと反省しています。
 それは最近、ある居住者から聞いた言葉に心が震りつく思いを抱いたからです。ここ1～2年防災講習会や防災訓練に参加しなくなったという居住者が言った「今のマシーンには、防災会がしっかりしているから安心」と言う一言でした。自分や家族の命を守る活動が他人任せ、自主防災会任せになっているようです。

もしかしら我々の防災活動は居住者の心の中に「巨大防壁」を築いているのではないかと、少し恐れを抱いています。
 東日本大震災で大きな被害を出した岩手県宮古市田老地区では、高さ10mの巨大防壁が住民の心の中に「遠慮と遮断」を生み出し、その結果、逃げ遅れた多くの住民が津波の犠牲になってしまいました。
 これと同じことをアドバイザーが繰り返してはならないのです。

今後の最大の課題は、アドバイザーに居住する全ての人が、防災を自分自身の問題としてとらえ、「災害で死なない防災力」を身につけ、共有することだと思っています。

平成27年4月30日
 アドバイザー管理組合
 MLCP策定委員会

「MLCP通信編集部」
 佐藤/保口
 発行 No.018

MLCP通信：第18号



（敬称略）

「委員会メンバー」	アドバイザー	MALCA
1 安部俊一	吉川明敏	飯田太郎
2 前田 勝	平田 伸	和久田幸希
3 岸 好雄	高田俊子	高野成彦
4 高橋祐夫	菅田幸子	原谷節雄
5 柴田 茂	小澤裕夫	井ノ口泰之
6 佐藤靖雄		鈴木和美

（20名・構成）

「注記」

- 1 27・31日、MALCA指導による第18回MLCP策定委員会にアドバイザーが参加しました。
- 2 MALCA指導による、詳細は別途「わが家の防災マップ」を作成して、全戸配布致します。
- 3 MLCP策定委員会も、最終回を迎え最後のこの活動に対するお礼を掲載致しました。

件名：アドバイザーMLCP（地区防災計画）遂に完成！！

1.] 前文

* 安部委員長より、最終広報誌を発行するにあたり、前文とコメントを寄稿いただきましたので記載し、各委員のコメントも合わせて記載致します。

平成26年7月に発足したMLCP策定委員会では、11名の策定委員と6名のアドバイザーが、一般社団法人アドバイザー総務協会（MALCA）の指導のもと、毎月第2水曜日と第4日曜日に定例会議を開催し、毎回の時間～3時間ほど、延べ18回の委員会で討議を重ねてきました。また、定例会議とは別に2回の迅速委員会を開催して、東京都が計画中であった防災マップで学習したり、横浜質市上下水道課を訪問して上下水道の災害耐性や巨大災害で上下水道が途切れた場合の災害復旧の迅速性を確認するなどの活動を行いました。

これらの作業の結果を踏まえ、巨大災害への事前の備えと、災害が発生した後の初期対応、即急対応、在宅避難生活の確保、マップの復旧・復興までの一連の防災・減災活動を、アドバイザーMLCP（地区防災計画）の中に絡めました。

アドバイザーMLCP（地区防災計画）は、本編5冊及び電磁記録（CD）と全戸配布用の「わが家の防災マップ」として完成しました。
 本編5冊は、管理組合保存用1冊、自治会保存用1冊、居住者閲覧用1冊の他に、内閣府及び横浜質市防災会館に各1冊提出します。居住者閲覧用の冊子は管理事務室に保管していますので、日本で最初に完成した地区防災計画をご確認ください。

MLCP通信は、第18号をもって居住者の皆さんの皆さんの広報活動を終了しました。長い間、ご愛読ありがとうございました。
 「MLCP通信編集部」佐藤/保口からも、感謝を申し上げます。
 最後に、MLCP策定作業に携わった策定委員とアドバイザーの皆さんの皆さんから、MLCP策定作業を通じて感じた貴重な感謝と、本計画完了後のアドバイザー防災体制への期待をコメントして頂きます。

2.] MLCP策定委員のコメント

策定委員：野 好雄さん (614号室)・(管理組合防災担当副理事長)
 自分は特許型で学識の課題解決に向いており、水災係が専門である。
 例えば、貯水槽、消音、水リカなど、言いたい事、やりたい事がたくさんあったが
 MLCP策定委員会での議論内容は、地区防災計画と言う制約的な課題に取られて
 しまい、ワザワザ自体、住民が関心のある事柄については、今後の課題として落っ
 てしまいました。
 以降、自主防災会の活動の中で学識の中で学識的にやれることから重く始めたいと
 思っております。

策定委員：吉川 祝秋さん (708号室)・(防災指導員、長寿会会長)
 MLCP策定委員を拝命しましたが、悪いもよまない病気の治療のため、途中から
 委員会に参加できなくなりましたが、悪いもよまないことをお呼び致します。
 委員会の経過は、講義録やMLCP通信で随時確認していましたが、策定委員の
 皆さん、アドボカイトの皆さんの努力により、立派な計画が完成し、ワザワザの
 安心の暮らしの仕組みがますます強固なものになって行くことを嬉しに思います。
 高齢者が安心して暮らせる環境作りに長寿会を代表して感謝申し上げます。

策定委員：平田 伸さん (714号室)・(自治会防犯部会長)
 今回の策定委員会を通じて、将来予感される災害への心構えが得られた事を
 感謝致します。
 住民全体の規模ある行動が、いかに大切なのかを
 認識しました。

策定委員：高田 俊子さん (1013号室)・(民生委員、児童委員)
 MLCP策定委員会に参加して、防災・災害に対してどのような行動及び
 活動をするべきか？準備は万全か？など、色々知らなかった事が
 多く学ぶことができました。
 今後はみんなの事を活かし、住民の皆様の力と共に一緒に協力してもらおう事が
 一番必要だと思います。

策定委員：小澤 裕夫さん (1109号室)・(防災指導員、自治会防災部会副部長)
 なんの知識もなく策定委員になり、会議に参加することで
 良い勉強ができました。災害に対して具体的に行動する目標を
 持つことができました。

2.] MLCP策定委員のコメント

副委員長：前田 勝さん (112号室)・(防災士)
 ワザワザについて、長期にわたり参加して、得たい勉強をさせていただきました。
 東日本大震災のとき、避難の呼びかけ、避難所の開設、防犯、帰宅者の見守り等を、管理人さん
 をはじめ、教人の仲間と対応したときを思い出します。
 あの時期した、責任の重さと心細さ、不安は、今後震災了前後の震災に昇華されたら
 どうなるのかと時々思います。
 あの頃、震災当初から夜半過ぎまで、居住者の帰宅状況、行動から大震災での生活の方
 には、災害から命を守る大案で、そして大災害に昇華されたら様々な問題に事前しければ
 ならないことをを認識、理解して頂くことが必要と考えます。
 今後、できるだけ早くこの成果を実践あるものにすべく、ワザワザの
 メイ活動として取り組むべきと思います。

広報担当委員：佐藤 輝雄さん (217号室)・(管理組合監事、大規模修繕委員)
 広報担当を依頼され、MALCAの指導のもと広報の防災課題について教育を受けながら
 活動をして、その中を要約し住民の皆さんに広報してきましたが、これで終了ではありません。
 今後、住民の皆さんには速んで研修を受けて頂き、居住者全員の安心・安全のため
 防災知識を身につける必要があります、又人任せでは誰も責任は取ってくれません！！
 これからも、本番です。
 災害時には、それぞれの場所、時間、場所、状況、情報、準備、準備、準備、など、置かれた
 環境に準じた対応策が取れるように研修・訓練してこそが、ただ一つ生き残る道と考えます。
 そのための一助として、今後とも活動して行きたいと思っております。
 MALCAの皆様、委員の皆様と知り合いになり、大いに助けて頂きましたこと、いざと言う時に
 助け合える信頼関係が生まれた事に感謝申し上げます。

策定委員：高橋 邦夫さん (421号室)・(自治会環境部会長)
 分厚い資料が読めることになりましたが、住民の皆さんが、書かれたことを身につけ
 防災時に行動に活かせるかがより重要で、
 至の持ちこたえられないような中期行動計画が合わせて必要と思います。

策定委員：柴田 茂さん (609号室)・(防災指導員、自治会防災部会副部長)
 MLCPも完成し、これからはこの計画をもとに居住者全員が参加して、みんなが協力しあえる
 組織を速り上げて行くことが重要だと思います。
 これから進めて行く活動が一番大切であり、また一番大変な作業になるのではないかと
 思われます。

(3/4)

3.]アドバイザー-委員のコメント

アドバイザー：久田 幸彦さん (909号室)・(自治会防災部会長、大規模修繕委員長)

9カ月以上にわたって活動したMLCP 策定委員会の活動を振り返ってみて感嘆もひとしおです。しかし、このMLCPができてからが本当の防災計画の始まりだと思います。

大規模災害はいつ発生してもおかしくありません。昔が危機感を共有し、自分が今何をすべきかをとっさに判断して行動しなければなりません。このMLCPを基により一層の防災力をすべての住民が身につけていければと考えます。

策定委員の皆様、MALCAの皆様、長期間の計画策定業務的御礼です。特に佐藤さん、MLCP運営をはじめとした広報活動御礼でございます。

アドバイザー：高野 成彦さん (910号室)・(横須賀市消防局久里浜出張所長)

業務多忙につきコメントが書きませんでした。

アドバイザー：長谷部 誠さん (1207号室)・(自治会青年部副部長、陸上自衛官)

ここまで整備されてしまうと、すべて自分たちで完結できるように思われがちですが、行政との折衝を密にとり、ノウハウが孤立化しないようにこれからも協力して行きたいです。

2.]MLCP策定委員のコメント

策定委員：吉田 幸子さん (1106号室)・(海辺ニュータウン地区防犯指導員)

私は、海辺ニュータウン地区防犯指導員として、地区内の防犯パトロールをこなしてきました。子供たちが楽しく通う通学路の見守り活動もしてきました。日中は暑やかな海、透明度が高く魚が泳ぐ姿も見えます。それがいざ災害が起きて、地震、津波による火災などが起きた時にどのように対応するのか。

策定委員として、最初は何も分からず少しずつ勉強を重ねて、警報女性があまり見ない、考えないようなところも皆さんと勉強をしてみました。免震室、下水の種類、受水槽など、まだ学ぶことが多くあります。続けていかなければいけないと考えています。

防災会の人達がやってくれているからと安心している人達へ！自分や家族の将来を人任せにして良いのですか？

自分の生命、生活を決めるのはあなた自身です。まず行動を起こして下さい。自分の命を助け、家族を助け、周りの人々を助けて下さい。協力して皆で生き残りたいです。一人の犠牲者も一人の死者も出さないように、まず行動を起こさなければなりません。

3.]アドバイザー-委員のコメント

アドバイザー：鈴木 和美さん (401号室)・(横須賀市立看護専門学校副校長)

=あなたが主役！=

やっぱり住んでいらっしゃる方たちを「家族」として考えましょう。

そうすれば自分にはできることは必ず見つかります。

いつも戻っている、サウナから、刺りばし、ジグソー、スリッパ・・・身近な物が、負傷者の即応手当てに役立ちます。それ以外のものは、もちろん「一人ひとりの行動」です。

アドバイザー：高石 博一さん (702号室)・(自治会会長、海上自衛官)

仕事帰、夕方内でお災した場合には初期の防災活動を実施した後は帰郷に行かなくてはならずその後最期にわたって準備できない状態になりますので、自治会長でありながら、夕方の防災・防災活動の重役職力とはなりません。

故に平時における準備や会議だけでも貢献しようと、アドバイザーとして参加させていただきました。

海上自衛隊は海上自衛隊ほど災害救助に精通しているわけではなく、主に洋上・

沿岸で訓練、物資の輸送、買水の供給などの後方支援しか出来ず、私自身も日本大震災をはじめ過去の災害救助には参加しておりません。しかしながら組織の体系作りや運用方法、また、簡潔明確な通信手段など自衛隊で活用されていることをアドバイザーすることは出来たのではないかと思っています。

ともあれ、MLCPの発足は「一」ではなく、防災・被災活動に向けて「住民が一斉に並ぶ」ことができる「一」が引かれた段階ということで、実際に走り出すところから重要だと感じます。

3.] アドバイザ・委員のコメント

アドバイザ - 井ノ口 泰之さん (1311号室)・(自治会会計担当理事、海上自衛官)
私は、船舶勤務等で家を空けることが多いので、災害が発生した時に在宅の家族が活躍することが無いような仕組みをマツカの中に作る必要だと考えました。

副署でも通信に関する業務を担当していますので、MLCP防災委員会は主に「災害時の安全確認がらみ」を担当させて頂きました。
大規模な災害が発生した時に、遠隔地で被災した人達とマツカ内の家族との間で相互に安全確認ができれば、危険を冒して徒歩で帰省する必要がなくなります。
MLCPの活動では、多少なりともマツカのお役に立てたかなと思います。

4.] MALCA委員のコメント

MALCA 飯田専務理事

計画を作ることでもありますが、皆さんの人間味が何よりも威力であり、強みだと思っています。又、ご挨拶の通り細かいこと、切込んで言わないことも火山があります。

例えば、ネリツカや電話のことなどですが、これから一緒に考えていければと思います。今後、横浜質市、内閣府から色々な話があると思うので、フォローアップして行きたい。

最後に、内閣府・西澤さんからマツカがマツカの地区防災計画をマツカ防災計画のひな型にしたという話がありました。

これからはマツカが調査、視察などの協力要請があり、皆さんにも是非協力をお願いしたい。9月間お疲れ様でした。

MALCA 吉野委員

日本で一番防災が進んでいるマツカの防災計画に、MALCAを共同頂き一緒に築きあげていくことが出来て感謝しております。

防災は、実地的に行うことが大事であり、実際に誰を助けるか誰が呼んでいる事が大事です。実際の危機管理は、誰でもやれる仕組みを、MLCPで作っていくこと。

これからはマツカがマツカは、先に進んでいく事を信じております。

MALCA 浜口委員

9月間、私自身も大変勉強になりました。

今後東京海洋大学の郵電実録などでお世話になりますので、よろしくお願ひ致します。

(4/4)

6.] MLCP第18回・策定委員会協議風景

